

# 第 6 章

## 資料編

## 第6章 資料編

### 資料1 堺市生物多様性地域戦略策定会議

生物多様性・堺戦略の策定にあたっては、学識経験者、NPO・市民団体、企業などの多様な主体の方々から意見をいただく場として、「堺市生物多様性地域戦略策定会議」を設置し、3回にわたり開催しました。開催状況と会議委員は以下のとおりです。

#### ■策定会議開催状況

回	日程	場所
第1回	2012年 6月19日(水)	堺市役所本館20階第1特別会議室
第2回	2012年11月21日(水)	堺市役所本館20階第1特別会議室
第3回	2013年 3月15日(金)	堺市役所本館地下1階会議室B

#### ■委員一覧

	団体など名称	委員名	所属	役職
学識経験者・ 研究機関など	大阪府立大学	石井 実	生命環境科学研究科	教授
	大阪府立大学	加我 宏之	生命環境科学研究科	准教授
	大阪府立大学	浦出 俊和	生命環境科学研究科	助教
	大阪府立環境農林水産総合研究所	大美 博昭	水産技術センター	主任研究員
	郷土史研究家	森田 兼夫	—	—
NPO・市民団体など	環境教育プランナー／ 堺エコロジー大学運営会議委員	後藤 清史	—	—
	関西野生生物研究所	川道 美枝子	—	代表
	NPO法人いっちゃんクラブ／ 樹木医・森林インストラクター	福田 壤嗣	—	理事長
	市民ボランティアネットワーク 「石津川に鮎を」	西山 巖	—	会長
企業	コスモ石油株式会社	仲條 正則	総務課	課長
	株式会社シマノ	太田 勝之	6シグマ	次長

#### ■策定会議の開催内容

<b>■第1回会議</b> (2012年6月19日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堺市の生物多様性の現状と課題</li> <li>・堺市生物多様性地域戦略構成素案等検討</li> <li>・平成24年度スケジュールの確認 等</li> </ul>
<b>■第2回会議</b> (2012年11月21日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケート結果の報告</li> <li>・調査結果のまとめ</li> <li>・堺市生物多様性地域戦略（案）について議論 等</li> </ul>
<b>■第3回会議</b> (2013年3月15日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメント結果の報告</li> <li>・堺市生物多様性地域戦略（案）の確認、修正（策定会議最終案まとめ）等</li> </ul>

## 資料2 市民アンケート結果

### (1) アンケート概要

本市では、市政の重要な課題や市民生活に関係の深い問題などに関して、市民意識を迅速に把握し、市政の効率的かつ合理的な運営に役立てるため、市内在住・在勤・在学の18歳以上の方500人で構成される市政モニター制度を実施しています。戦略を策定するにあたり、この市政モニター制度を活用して、2012年7月に市民に生物多様性への意識や考え方を調査しました。

### (2) アンケート結果と考察

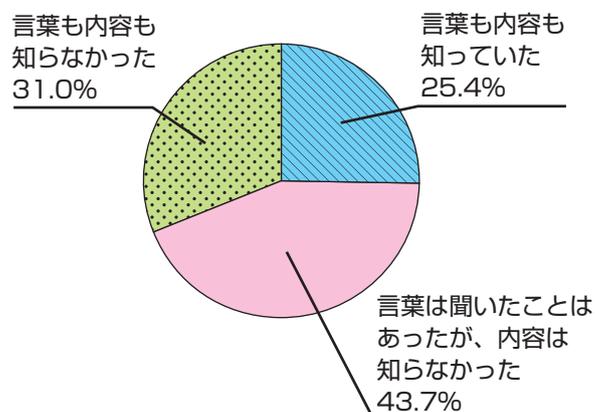
アンケートの結果（抜粋）について以下に示します。

（出典：平成24年度 第1回 市政モニターアンケート報告書）

#### 「生物多様性」という言葉を知っていましたか。

「言葉も内容も知っていた」が25.4%、「言葉を聞いたことはあったが、内容は知らなかった」が43.7%となり、「生物多様性」という言葉の認知度は合わせて69.1%となる。また、「言葉も内容も知らなかった」、「言葉を聞いたことはあったが、内容は知らなかった」を合わせると、74.7%が内容を知らないということになり、言葉は知っているが、内容の浸透度は低いことがうかがわれる。

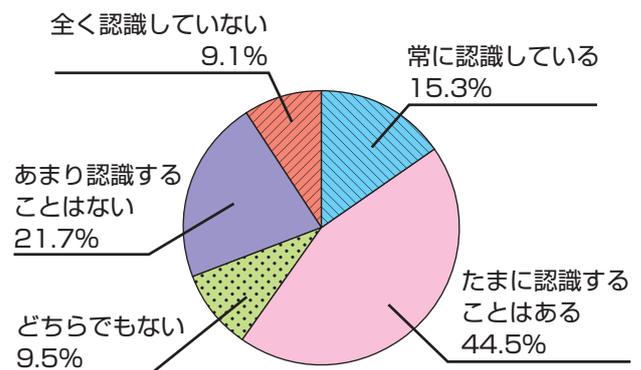
	選択項目 (N=497)	回答者数	構成比(%)
1	言葉も内容も知っていた	126	25.4
2	言葉を聞いたことはあったが、内容は知らなかった	217	43.7
3	言葉も内容も知らなかった	154	31.0
	無回答	0	0.0
	計（回答者総数）	497	100.0



**生物多様性の変化は、私たちが暮らしの中で受けている食糧・水・気候の安定などの「生態系サービス」の程度に影響すると考えられています。  
あなたはこのようなことを認識していましたか。**

生物多様性の変化が生態系サービスの程度に影響することを認識している割合は「常に認識している」、「たまに認識することはある」を合わせると59.8%となっており、約6割程度の人  
が生物多様性の恩恵を受けて生活していることを認識していることが分かる。

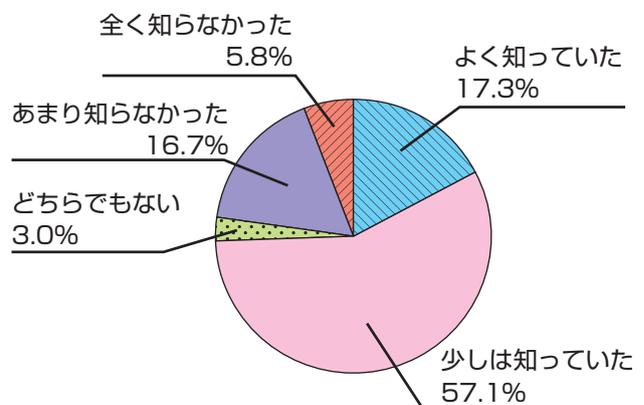
	選択項目 (N=497)	回答者数	構成比(%)
1	常に認識している	76	15.3
2	たまに認識することはある	221	44.5
3	どちらでもない	47	9.5
4	あまり認識することはない	108	21.7
5	全く認識していない	45	9.1
	無回答	0	0.0
	計 (回答者総数)	497	100.0



**今、人間活動による影響が主な要因となり「生物多様性」が危機に瀕（ひん）しています。  
日本でも、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類の3割強、哺乳類、維管束植物（木や草）の  
2割強、鳥類の1割強の種に絶滅のおそれがあるとされています。  
あなたは、このようなことを知っていましたか。**

「少しは知っていた」が57.1%と最も高く、次いで「よく知っていた」が17.3%であった。両方を合わせると74.4%の人が、生き物が絶滅の危機に瀕していることを知っていた。

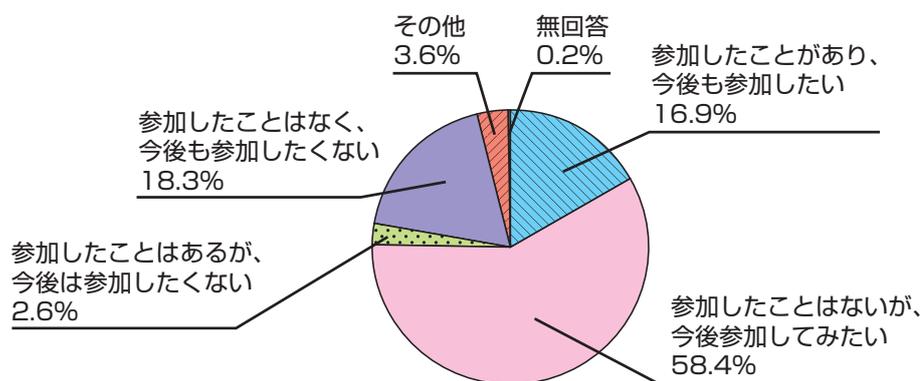
	選択項目 (N=497)	回答者数	構成比(%)
1	よく知っていた	86	17.3
2	少しは知っていた	284	57.1
3	どちらでもない	15	3.0
4	あまり知らなかった	83	16.7
5	全く知らなかった	29	5.8
	無回答	0	0.0
	計 (回答者総数)	497	100.0



### 植樹や自然観察会など、生物多様性の保全を推進するような活動に参加したことはありますか。

「参加したことがあり、今後も参加したい」が16.9%、「参加したことはないが、今後参加してみたい」が58.4%であり、合わせると「参加したい」と思っている人の割合は75.3%となり、参加した経験がある方の割合は高くはないが、参加したいという意欲をもつ人は多く、生物多様性を保全する活動に意義を感じている人が多いことがうかがえる。

選択項目 (N=497)	回答者数	構成比(%)
1 参加したことがあり、今後も参加したい	84	16.9
2 参加したことはないが、今後参加してみたい	290	58.4
3 参加したことはあるが、今後は参加したくない	13	2.6
4 参加したことはなく、今後も参加したくない	91	18.3
5 その他	18	3.6
無回答	1	0.2
計 (回答者総数)	497	100.0



## 資料3 補足生物調査

### (1) 調査名

平成24年度堺市生物多様性地域戦略策定調査（大阪府立大学・堺市共同研究）

### (2) 調査概要

本市における生物調査は、その目的に応じて数多く実施されています。これらの調査文献を整理し、近年行われていない部分や不足している部分を補足的に調査することで、本市における生物多様性の現況を把握することを目的として実施しました。

#### 【調査項目】

1998年を中心としてすでに市域の大規模な生き物調査が実施されていること及び、総括的な生き物のデータは2007年度の「堺市レッドリスト」で整理されていることを踏まえ、貴重性に注目しながら、一般に認識されやすい（親しみやすい）生き物を調査対象としました。調査したものは次のとおりです。

- ・植物
- ・鳥類
- ・昆虫類（チョウ・トンボ・ホタル類）
- ・魚類
- ・外来生物

#### 【調査時期】

調査は、2012年5月から2012年10月の期間に行いました。以下の表に調査項目と調査時期を示します。

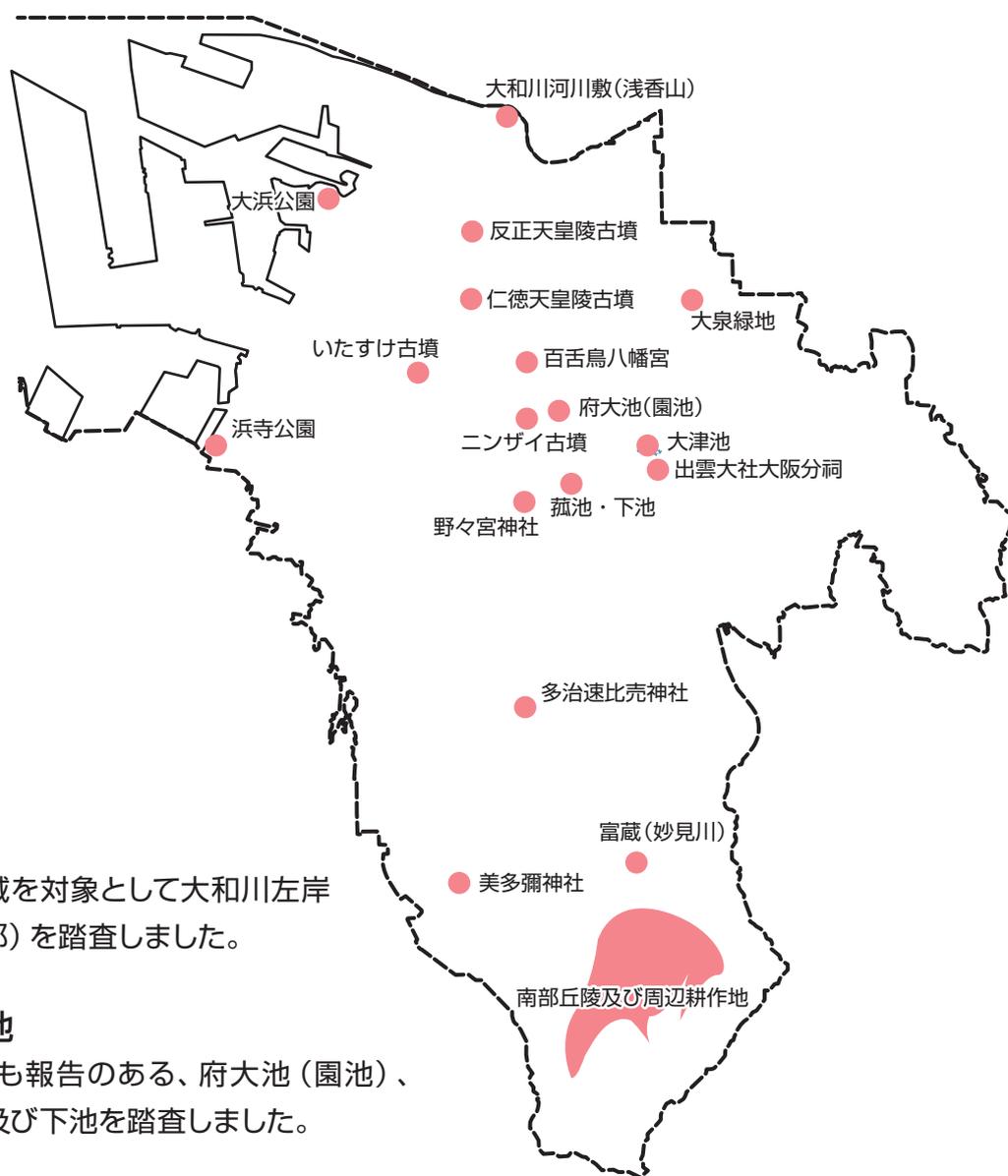
表. 調査項目・調査時期一覧

	春 季	初 夏	夏 季	初 秋	秋 季
植 物	●				●
鳥 類		●		●	
昆 虫 類	●		●		●
魚 類			●		

※その他外来生物などについては、上記調査に付随して行いました。

## 【調査地点】

調査は以下の地点で実施しました。



調査地点図

### ア. 河川

主として陸域を対象として大和川左岸河川敷(下流部)を踏査しました。

### イ. ため池

既往調査でも報告のある、府大池(園池)、大津池、菰池及び下池を踏査しました。

### ウ. 農地及び周辺地域

南部丘陵及び周辺農地(富田、別所地区を含む)、石津川水系上流部を踏査しました。

### エ. 公園

主に海浜性の種の確認を目的として浜寺公園、大浜公園(周辺を含む)を踏査したほか、既往調査でも報告のある大泉緑地で調査を行いました。

### オ. 古墳及び社寺林

古墳では仁徳天皇陵古墳、反正天皇陵古墳、いたすけ古墳、ニサンザイ古墳を、社寺林では百舌鳥八幡宮、野々宮神社、出雲大社大阪分祠、多治速比売神社、美多彌神社を踏査しました。

なお、古墳調査にあたっては、周濠での水生生物調査を中心に実施しました。

### (3) 調査結果など

#### ①調査結果の概要

##### ア. 河川

踏査した大和川は、右岸・左岸とも広大な砂地が形成され、またイネ科を主体とする草地も広がっていました。左岸では、やや上流方向に離れて小規模な樹林が存在するほか、堤防上は公園として利用されていました。

調査地は低茎草地及び裸地が主体であるものの、水域から堤防まで連続した環境となっているうえ面積も大きいことから、生物の生息地としての環境は良いと思われます。しかし、堤内地は市街地であるため、河川及び河川敷の生物が堤内地に広がる要素は少なく、また、かく乱を受けやすい場所であるため、すでに多くの帰化植物が繁茂していました。



水際—河川敷—草地と連続した水辺環境



法面及び堤上の公園

#### ◆貴重種などの確認状況

植物でカワヂシャを確認したほか、鳥類でも4種の堺市レッドリストなどへの掲載種が確認されました。

分類群	堺市レッドリストなどへの掲載種	外来生物
植 物	カワヂシャ	オオカワヂシャ、コマツヨイグサ、セイヨウカラシナ、セイヨウヒキヨモギ、ツルマンネングサ、トゲミノキツネノボタン、ナガミヒナゲシ、ナヨクサフジ、ヒルザキツキミノウ、ムラサキツメクサ、ユウゲシヨウなど
鳥類	ゴイサギ、コサギ、ササゴイ、ダイサギ	なし
昆虫類	なし	なし
魚類	なし	なし
その他	なし	アメリカザリガニ

今回確認された堺市レッドリストなどへの掲載種はいずれも、これまでも記録のあるものでした。外来生物であるオオカワヂシャについては、志賀ら(2008)によって大和川流域の調査が行われており、「カワヂシャと同じ場所に見られることから、恒常的に雑種形成がおこる」と指摘されています。



カワヂシャ：Bランク



ササゴイ：情報不足



オオカワヂシャ：外来生物



ナヨクサフジ：外来生物

## イ. ため池

今回調査を行ったため池はいずれも市街地に位置するため、治水・安全上の理由から周囲の大部分がコンクリートで護岸されており、水域と陸域とは分断された環境となっています。また、大津池（東区）では容易には近づけないものの広いヨシ原が形成されており、多くの生物の生息環境となっていることが考えられます。



府大池（園池）



大津池

### ◆貴重種などの確認状況

鳥類で5種の堺市レッドリストなどへの掲載種が確認されました。これらの種はいずれも、これまでも記録のあるものでした。

分類群	堺市レッドリストなどへの掲載種	外来生物
植 物	なし	なし
鳥 類	ケリ、カワセミ、コサギ、ダイサギ、コサメビタキ	なし
昆虫類	なし	なし
魚 類	なし	なし
その他	なし	アカミミガメ、ウシガエル、アメリカザリガニ



ダイサギ:Cランク（大津池）



コサメビタキ（大津池）

## ウ. 農地及び周辺地域

南部丘陵の樹林に加え、周囲の別所、豊田、富蔵などの農地及び河川を踏査しました。

南部丘陵内にパッチ状（斑状）に点在する一部の農地では、周辺に小さなため池も配置されており、これらの環境のまとまりが多様な生物種の生息基盤となっていることがうかがえます。



南部丘陵の樹林

## ◆貴重種などの確認状況

樹林内ではキンランをはじめとした14種、農地及びその周辺のため池でコモウセンゴケなど20種の堺市レッドリストなどへの掲載種が確認されました。このうちシロガヤツリは市の調査としては初めての記録種です。ゲンジボタルは石津川水系の上流部のいくつかの地点で確認されています。

畦畔草地ではリンドウやワレモコウなど多くの貴重種が確認された一方で、ナルトサワギクやダキバアレチハナガサなどの外来生物も目立っていました。

### 〈樹林内〉

分類群	堺市レッドリストなどへの掲載種	外来生物
植 物	キンラン、ジガバチソウ、オオバノトンボソウ、ツルニンジン、イチヤクソウ、オオバウマノスズクサ、シリブカガシ、ミヤマウズラ、ハナミョウガ、ホウチャクソウ、ショウジョウバカマ、クサソテツ	メマツヨイグサ、セイタカアワダチソウ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン、シロツメクサ、ヤワゲフウロなど
鳥 類	なし	なし
昆虫類	ムカシヤンマ	アオマツムシ
魚 類	なし	なし
その他	なし	なし

### 〈農地・池〉

分類群	堺市レッドリストなどへの掲載種	外来生物
植 物	ヤクシソウ、ミツバツチグリ、ワレモコウ、アイノコイトモ、ヒメコヌカグサ、ツリガネニンジン、ノギリラン、ノハナショウブ、キセルアザミ(マアザミ)、ウキシバ、オミナエシ、リンドウ、ミズスギ、オトコエシ、コガンピ、コモウセンゴケ、タチカモメヅル、ショウジョウバカマ、タムラソウ、シロガヤツリ	イヌホオズキ、アメリカイヌホオズキ、ブタナ、アメリカミズキンバイ、コマツヨイグサ、メマツヨイグサ、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ダキバアレチハナガサ、ナルトサワギクなど
鳥 類	なし	なし
昆虫類	ゲンジボタル	アオマツムシ
魚 類	なし	なし
その他	なし	ウシガエル、アメリカザリガニ



リンドウ：Cランク（南部丘陵）



ムカシヤンマ：Aランク（石津川上流部）



コモウセンゴケ：Aランク（南部丘陵）



ダキバアレチハナガサ：外来生物（南部丘陵）

## エ. 公園

浜寺公園には、生物の生息環境となるかつての防砂林を残す環境があります。

また、大浜公園や大泉緑地は園内に池や水路が整備されているため、生物の生息環境としての要素は多い状況となっています。



浜寺公園内の樹林

### ◆貴重種などの確認状況

海浜性の植物として、ツルナやハマヒルガオが、また鳥類で3種の堺市レッドリストなどへの掲載種が確認されました。海浜性の植物は公園内よりも、周辺の海に面したブロックや法面で多く見られました。

今回確認された貴重種は、これまでも記録のある種でした。

分類群	堺市レッドリストなどへの掲載種	外来生物
植 物	ツルナ、ハマヒルガオ	ホコガタアカザ、コマツヨイグサ、メマツヨイグサ、シロザなど
鳥 類	カワセミ、オオバン、キビタキ	なし
昆虫類	なし	なし
魚 類	なし	なし
その他	なし	なし



オオバン (大泉緑地)

## オ. 古墳及び社寺林

墳丘部での調査はできませんでしたが、今回調査した古墳は景観的には照葉樹林の「塊」を呈しており、都市の中においては貴重な樹林環境となるものでした。また、それらの周濠にはヨシやタデ類などの植生をとまなっているものが見られました。



いたすけ古墳（北区）

### ◆貴重種などの確認状況

今回の調査では、ミズイロオナガシジミ、ムラサキツバメが確認されました。両種とも、市の調査では初めての記録となるものです。

反面、古墳の周濠ではアメリカザリガニやアカミミガメ、ブルーギルなどの外来生物が大量に確認されました。市街地や住宅地に近接した立地であるために侵入しやすく、またほとんど改変を受けることがないため、これら外来生物の個体数増加につながっているものと考えられます。

分類群	堺市レッドリストなどへの掲載種	外来生物
植 物	なし	セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、オランダミミナグサ、ムラサキカタバミ、コニシキソウ、ヒメジョオン、チチコグサモドキなど
鳥 類	なし	なし
昆虫類	ミズイロオナガシジミ、ムラサキツバメ	トガリアメンボ
魚 類	なし	カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス
その他	なし	ウシガエル、アカミミガメ、アメリカザリガニ

## カ. 堺市レッドリストにおける「要注目植物群落」に関して

### (ア) アカマツ群落

南部丘陵においてアカマツ群落の現状把握を目的として踏査を行いました。今回踏査した範囲では、アカマツは孤立木として尾根や崖地に残るのみであり、少なくとも「群落」として区別できる規模のものは確認できませんでした。

アカマツ林減少の原因としては、「堺市レッドリスト」に述べられているように松くい虫の被害や遷移の進行が考えられ、「アカマツ群落」として塗り分けられた植生図作成時(2006～2007)と比較しても衰退が進んでいるものと考えられます。



崖地に残るアカマツ (別所)

アカマツ群落については、里山林の象徴的な樹林の一つとして、また植生の多様性を高める見地からの存在意義などが考えられます。しかし、里山林の放棄によって放置され、荒廃して遷移が進行しているものであるため、再生や保全については今後検討が必要です。

### (イ) 堺市南部の棚田植生

南部丘陵周辺にある農地では、多くの貴重種が確認されました。農地内や畦畔、定期的に刈り取りが行われる法面やため池などを含め、耕作者が積極的に関わっている場所では現在でも生物多様性が保たれているものと考えられます。

## ②調査結果から見た堺市の自然環境

既往調査及び今回の補足調査の結果から、堺市の環境の特性として以下の点が挙げられます。

### ア. 南部丘陵の特性

現在堺で最も多くの野生生物相を擁しており、またさまざまなタイプの環境が存在して大規模な生息環境の「まとまり」を形成しており、一部の環境は今も耕作によって維持されています。

### イ. 広範囲に多数確認された外来生物

市街地に近い場所では外来生物の侵入・定着が顕著であり、一部の水域では生息する種のほとんどが外来生物で、その「温床」とも呼べる状況となっています。

### ウ. 散在し、断片化した緑地環境

市街化が進んだ地域がほとんどであるため、個々の緑地は道路や市街地などによって分断され、断片化しており、また水域環境では管理上の制約から縮小・改変されることが多くなっています。

## 資料4 用語集 (50音順)

### 愛知目標 あいちもくひょう

2010年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) において採択された行動目標。2050年までに自然と共生する世界を実現するために、2020年までに達成すべき20の目標を定めたもの。

### アドプトリバー あどぷとりばー

「アドプト」は「養子にする」という意味で、河川を「養子」、参加者を「里親」にみたて、参加者が河川の美化活動を定期的に行う制度。

### ESD (持続発展教育)

いーえすでいー (じぞくはってんきょういく)

Education for Sustainable Developmentの略で、「一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」と定義されている。

### 大阪層群 おおさかそうぐん

大阪平野・京都盆地・奈良盆地・西宮・明石・淡路島の丘陵をつくる第三紀末～第四紀中期の地層。

### 海進 かいしん

気候の変動などの影響によって海面が上昇し、海岸線が内陸側へと移動すること。

### 外来生物 がいらいせいぶつ

本来の自然分布域を越えて、人間活動によって持ち込まれた生物。

### 外来生物法 がいらいせいぶつほう

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」の略称。海外から日本へ持ち込まれて、日本の在来生物の生存を脅かしたり、生態系を乱したり、または乱すおそれのある外来生物の取扱い規制と、併せて外来生物の防除を行うことを定めた法律。

### 回廊 かいろう

コリドー (緑の回廊) ともよばれる。野生生物の生息地の連続性を確保し、遺伝的交流を維持するための森や水辺などの自然環境。

### 緩衝地域 かんしょうちいき

バッファゾーンともよばれる。自然保護地域の地域区分 (ゾーニング) のひとつで、コアエリア (核心地域) を取り囲み、保護地域外からの影響を軽減するための地域。

### 灌漑 かんがい

農地に外部から人工的に水を供給すること。

### 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)

きこうへんどうにかんするせいふかんぱねる (あいぴーしーしー)

人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的・技術的・社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、1988年に世界気象機関 (WMO) と国連環境計画 (UNEP) により設立された組織。

### 汽水域 きすいいき

淡水と海水が混じりあう河口域や海岸近くの水域のことで、そこには塩分濃度の広い範囲に適応した独特の生物が生息している。

### 休耕地 きゅうこうち

使われていない水田や畑などの農地。

### 極相 きょくそう

ある場所の生物の集団が時間の経過とともに変わっていき (遷移)、最終的に成立する集団。

### 畦畔草地 けいはんそうち

畦畔は一般に畦とよばれる。通行や保水などの目的で、耕作用途以外のところに設けられる。主に草など、木以外の植物が生えている。

### 原生的 げんせいてき

人間の活動影響を受けていない状態。

### コア こあ

コアエリア (核心地域) ともよばれる。自然保護地域の地域区分のひとつで、保全すべき自然環境や優れた自然条件をもつ地域 (核心地域) 。

**耕起** こうき

団粒化の促進など土壌の状態をよくするために、水田や畑を耕すこと。

**交雑** こうざつ

異なる種や、同じ種の異なる集団間で、動植物が繁殖して子孫をつくること。

**洪積層** こうせきそう

現在の生物分布域の大部分が確立された約170万年前から約1万年前の時代（洪積紀）に生成された地層。

**在来種** ざいらいしゅ

その地域に従来生息・生育している動植物の種。

**堺7-3区** さかいななさんく

堺市西区築港新町にある産業廃棄物最終処分場。一次処分地と二次処分地がある。2004年の埋め立て終了後、一次処分地は処分場を廃止しており、跡地には広場やリサイクル施設が立地。二次処分地は処分場として廃止までには至っていないが、共生の森づくりなど暫定的な土地利用が進められている。

**堺2区** さかいにく

堺市堺区の埋め立て地で、「堺浜」ともよばれる。現在は生物多様性に寄与する護岸整備のほか、国土交通省の基幹的広域防災拠点や大規模商業施設などが立地している。

**里地里山** さとちさとやま

都市域と原生的自然との中間に位置し、さまざまな人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域であり、集落をとりまく二次林と、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される。

**CSR** しーえすあーる

Corporate Social Responsibilityの略。企業の社会的責任」のことで、企業活動において、社会的な公正や環境配慮などへの取り組みを進め、従業員や地域社会などの利害関係者に対して責任ある行動をとるとともに、説明責任を果たすこと。

**市街化調整区域** しがいちやうせいいくいき

都市計画法により、開発行為や都市施設の整備を原則行わないように指定された区域。

**自然植生** しぜんしょくせい

人間による伐採や植林などの手が加えられていない植物群落。

**社寺林** しゃじりん

鎮守の森とも呼ばれる。神社や寺院の境内の樹林で、地域の自然植生を反映していることが多い。社叢。

**浚渫** しゅんせつ

河口に位置する港などにおいて、河川から流入する土砂によって水深が浅くならないように取り除き、掘り下げること。

**照葉樹林** しょうようじゅりん

葉の表面の照りが強いカシ類やシイ類、ヤブツバキなどの常緑の広葉樹が優占する森林。

**常緑広葉樹林** じょうりよくこうようじゅりん

冬が比較的温暖で、年間を通して一定の降水量があることにより、紅葉・落葉することなく年中葉をつけている樹木が優占する森林。

**植栽** しょくさい

ある目的で草木を植えて育てること。

**植生** しょくせい

ある地域に生育している植物の集団の総称。

**植物群落** しょくぶつぐんらく

ある地域に相互に影響をおよぼしあって生育しているひとまとまりの植物の集団。

**新生代** しんせいだい

地質時代の一区分。約6,500万年前から現在まで含まれ、主に植物では草本、動物では哺乳類の繁栄で特徴づけられる時代。第4期は、約180万年前から現在まで。

**侵略的外来生物** しんりやくてきがいらいせいぶつ

地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのある外来生物で、本戦略では「外来生物法」において「特定外来生物」・「要注意外来生物」に指定されているものをさす。

**水源涵養** すいげんかんよう

森林の土壌が、雨水などを貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。

**水生昆虫** すいせいこんちゅう

生活史の少なくとも一部を水中や水面で生活する昆虫。

**生態系** せいたいけい

森や池など、ある一定の区域に生息・生育するすべての生物とそれらを取り巻く水や大気などの無機的環境からなるまとまり。

**生態系ネットワーク** せいたいけいねっとわーく

エコロジカルネットワークともいう。野生生物の生息地間を結び、野生生物の移動に配慮した連続性のあるネットワーク化された森林や緑地などの空間。

**生物共生型護岸** せいぶつきょうせいがたごかん

生物が定着しやすい環境を整備し、生物相を回復する目的を付加させた河岸や海岸を防護するための施設。

**生物相** せいぶつそう

特定の地域に生息・生育する動植物の全種。

**生物多様性基本法** せいぶつたようせいきほんほう

生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する施策を推進することを目的とし、生物多様性の保全と利用の基本原則や生物多様性国家戦略の策定、生物多様性地域戦略の策定(努力義務)などを定めた法律。

**生物多様性国家戦略**

せいぶつたようせいこっかせんりゃく

生物多様性条約及び生物多様性基本法に基づく生物多様性の保全と持続的利用のための国の基本的な計画。

**生物多様性ホットスポット**

せいぶつたようせいほっとすぽっと

多様な生物が生息・生育しているにもかかわらず、絶滅のおそれのある野生動植物種も多い、生物多様性にとっての重要地域をさす。

**絶滅危惧種** ぜつめつきぐしゅ

環境省、都道府県や市町村などのレッドリストに掲載された絶滅の危険性が高い生物種。

**瀬戸内海式気候** せとないかいしききこう

日本の気候区分の一つ。年間を通じて天気や湿度が安定し、年間を通した降水日数が梅雨を除いて少ないのが特徴。

**遷移** せんい

ある場所の生物の集団が時間の経過とともに変わっていくこと。植物群落の長い年月の変化(植生遷移)をさすことが多い。

**潜在植生** せんざいしょくせい

人間の活動による影響がなくなったとき、最終的に成立すると考えられる植生。

**代償植生** だいしょうしょくせい

伐採や植林などの人間の活動によって生じた植生。

**多自然川づくり** たしぜんかわづくり

河川事業の一つで、多自然型川づくりともよばれる。河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域のくらしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来もっている生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行う。

**棚田** たなだ

山間の傾斜地形にあわせて大小さまざまな形をした階段状の水田。

**沖積層** ちゅうせきそう

日本の平野部の大部分を占め、約2万年前以降に形成された比較的新しく一般に軟弱であることが多い地層。

**低茎草地** ていけいそうち

ひざ下程度の草丈の低い植物からなる草地。

**動物由来感染症** どうぶつゆらいかんせんしょう

動物から人に感染する病気の総称。例として狂犬病、ペスト、鳥インフルエンザなどがあげられる。

**特定外来生物** とくていがいらいせいぶつ

外来生物のうち、特に生態系などへの被害が認められるものとして、外来生物法によって規定された生物。生きているものに限られ、卵・種子・器官などを含む。

## 二次林 にじりん

自然林（一次林）が伐採や自然災害などによって破壊された後、自然に、または人為的に再生した森林。

## バイオマスエネルギー ばいおますえねるぎー

再生可能な生物由来の有機物資源（化石資源をのぞく）を利用して作られたエネルギー。

## ビオトープ びおとーぷ

生物を意味する「バイオ」と場所を意味する「トープ」を合成したドイツ語で、野生生物の生息空間を意味する。

## 干潟 ひがた

干潮時に沿岸域に現われる、砂や泥がたまった場所。アサリなどの二枚貝やゴカイなどの底生生物が多く生息し、堆積する有機物を分解するため水質浄化機能も高い。

## 樋門 ひもん

用水の取り入れや排水、あるいは洪水のときに逆流を防ぐために、河川や水路を横断して設けられる、堤防としての機能をもつもの。

## 氷河期 ひょうがき

氷河時代ともよばれ、地球の気候が長期にわたって寒冷化し、一部の地域に大陸氷河が形成された時代。

## 復田 ふくでん

耕作されなくなった田を、再び耕作するようにすること。

## 緑のネットワーク みどりのねっとわーく

環境面をはじめとした緑地のもつ多様な効果を促進するために形成された道路・河川・公園緑地などの連続した空間。

## ミレニアム生態系評価（MA）

みれにあむせいたいけいひょうか（えむえー）

国連の呼びかけにより、95カ国から1,360人の専門家が参加し、2001年から2005年にかけて行われた、生態系に関する地球規模の総合的評価。生態系の変化が人間の生活の豊かさなどにどのような影響を及ぼすかを示した。

## 遊休農地 ゆうきゆうのうち

現状耕作されておらず、引き続き耕作されないと見込まれる農地、または農業に利用される程度がその周辺地域の農地の利用の程度と比べて著しく劣っていると認められる農地。

## 緑被面積 りよくひめんせき

市町村など一定の広がりのある地域における樹林・草地・農地・園地などの植物で覆われた土地の面積。

## 礫 れき

直径が2mm以上の砂よりも大きい粒子。

## レッドリスト れっどりすと

絶滅のおそれのある野生動植物種のリスト。絶滅の危険性の高さによるカテゴリー分けがなされている。

## 資料5 参考文献一覧

### 【主なもの】

- 「環境影響評価制度事業に係る環境基礎調査報告書」(2007) 堺市環境局環境共生部環境共生課
- 「河川水生生物調査報告書」(2005) 堺市環境局環境共生部環境共生課
- 「河川水生生物調査報告書」(2010) 堺市環境局環境保全部環境総務課
- 「周辺海域水生生物調査報告書」(2005) 堺市環境局環境共生部環境共生課
- 「周辺海域水生生物調査報告書」(2010) 堺市環境局環境保全部環境総務課
- 「堺市自然環境基礎調査報告書」(1999) (社) 大阪自然環境保全協会
- 「平成14年度河川水辺の国勢調査(小動物)報告書」(2003) 国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所
- 「平成15年度大和川河川水辺の国勢調査(鳥類)業務報告書」(2004) 国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所
- 「平成16年度大和川河川水辺の国勢調査(陸上昆虫類等)業務報告書」(2005)  
国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所
- 「平成17年度大和川河川水辺の国勢調査(魚介類・底生動物)業務報告書」(2006)  
国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所
- 「平成18年度大和川河川水辺の国勢調査(植物)報告書」(2007) 国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所
- 「大阪湾生き物一斉調査データ」(2010~2012) 大阪湾環境再生連絡会
- 「三訂・地球環境キーワード事典」(2002) 中央法規出版、地球環境研究会(編)
- 「二万五千分一地形圖大阪近傍九號 古市」(1925) 大日本帝國陸地測量部
- 「二万五千分一地形圖大阪近傍十七號 堺」(1932) 大日本帝國陸地測量部
- 「五万分一地形圖和歌山五號 大阪東南部」(1932) 大日本帝國陸地測量部
- 「二万五千分一地形圖大阪近傍十六號 大阪西南部」(1934) 大日本帝國陸地測量部
- 「生態学事典」共立出版、(2003) 巖佐 庸ほか(編)
- 「OMUPブックレットNo. 15 「堺・南大阪地域学」シリーズ9. 大阪湾の自然と再生」(2008)  
大阪公立大学共同出版会、上甫木昭春(編)
- 「生物多様性国家戦略2012-2020~豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ~」(2012) 環境省
- 「日本の植生図鑑(I) 森林」(1983) 保育社、中西哲ほか
- 「数値地図50mメッシュ(標高)日本-3」(2000) 日本地図センター
- 「外来種ハンドブック」(2002) 地人書館、日本生態学会(編)
- 「生態学からみた里山の自然と保護」(2005) 講談社、日本自然保護協会(編)
- 「生態学事典」(1974) 築地書館、沼田真(編)
- 「生育環境別・日本野生植物館」(1997) 小学館、奥田重俊(編)
- 「大阪の自然ガイドブック」(2001) 農林水産業振興事業実行委員会、大阪府環境農林水産部(監)
- 「保全生物学」(2004) 丸善、Pullin, A. S. 著・井田秀行ほか(訳)
- 「堺観光情報ファイル おいでよ堺へ!ようこそ堺へ!」(2007) おいでよ堺21実行委員会、堺観光ボランティア協会(編)
- 「堺市公園緑地図 縮尺1:25,000」(2006) 堺市
- 「堺市全図(地形図) 縮尺1:25,000」(2010) 堺市
- 「南大阪都市計画(堺市) 地域地区図(平成23年3月29日現在) 縮尺1:25,000」(2011) 堺市
- 「堺の保護上重要な野生生物-堺市レッドリスト-ガイドブック」(2009) 堺市環境局環境保全部(編)
- 「2011堺の環境」(2012) 堺市環境局環境保全部(編)
- 「平成24年度 第1回市政モニターアンケート報告書」(2012) 堺市、堺市市長公室広報部(編)
- 「生物多様性キーワード事典」(2002) 中央法規出版、生物多様性政策研究会(編)
- 「大和川水系におけるカワチシャと外来植物オオカワチシャおよび雑種の分布」(2008)  
大阪市立自然史博物館研究報告 62:65-74、滋賀隆ほか
- 「日本の外来生物」(2009) 平凡社、自然環境研究センター(編)
- 「ビオトープ再生技術入門」(2006) 農山漁村文化協会、養父志乃夫